

2024年/3月学習会の案内 第61回「資本論を読む会」

DAS KAPITAL

3月28日（木曜日） 午後6時30分 Zoomで開催

次回は「第5節 資本主義的蓄積の一般的法則の例解①」[岩波文庫(三)p236-000]。



2月29日の「資本論を読む会」はしばらくぶりの参加のNさんを含めて10人で開催。T座長は前日28日に80歳の傘寿を迎えたとのこと。「おめでとうございます。」で始まりました。今回の第4節では相対的過剰人口の「三つの形態」。①流動的過剰人口（年少の労働者が中心で使い捨てにされる。）②潜在的過剰人口（都市に吸収されるのを待つ農村労働者）③停滞的過剰人口（貯水池にいる就業不規則の労働者）ということですが、おまけ(?)にもうひとつ、これらよりもっと悪い層として「被救護貧民－浮浪児、犯罪者、売春婦など」、マルクスがルンペン・プロレタリアートと呼んだ世界も紹介されています。内容は「全然難しくない」(?!) のですが、マンチェスターの「有産階級の平均寿命は38年、労働者階級のそれはわずか17年」という記述（p225）をめぐって「(寿命が) 少なすぎる」「そんなことはない」と、どうしても白熱した議論になりました。産業革命期の悲惨な労働者の実態の一面をどう見るかということですが、座長がエンゲルスの「イギリスにおける労働者階級の状態」を引用しながら、ムニャムニャとまとめるような格好でスルー。

次回から第5節「資本主義的蓄積の一般法則の例解」に入ります。実態・実例を中心に見て行くようなので、頭を悩ます難解な議論はないと思います。レポートはSugiさんです。よろしくね。終了後の懇親会では、週末にある支局総会や社青同OB会のこと。斉藤幸平やトマ・ピケティの「新しい社会主義」論などについて楽しく議論を交わしました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポートから -Kai

第23章 第4節 相対的過剰人口の種々の存在形態。資本主義的蓄積の一般的法則

- ①相対的過剰人口の流動的形態 ◎未成年労働者が中心で、青年になると解雇される労働者たち。老衰し低い等級に落とされた労働者で、労働者世代の急速な交代が見られる。
- ②相対的過剰人口の潜在的形態 ◎労働者として都市に吸収されるのを待つ農村人口のこと。
- ③相対的過剰人口の停滞的形態 ◎現役労働者の一部も含まれるが、就業している労働者の代わりをなす、不規則な就業をする労働者たちのこと。◎最大限の労働時間と最小限の賃金が特徴。
- ④相対的過剰人口の最下層 被救護貧民の世界 ◎慈善事業的な援助で生活する 貧民層「受救貧民」。(1) 労働者(失業者) (2) 孤児や貧児(産業予備軍候補者) (3) 障がい者、病人、寡婦等。
- ⑤ その他 ルンペン・プロレタリアート ◎浮浪者、犯罪者、売春婦等。

■資本主義的蓄積の一般的法則■ *資本主義社会では、労働の社会的生産力を高めるすべての方法が労働者階級の犠牲において実行され、賃金労働者は部分人間に、機械の付属物に引きさげられて非人間化される。
*資本主義的生産方法の発展、したがって、資本主義的蓄積の進展は、資本家の側における富の蓄積であるが、労働者の側においては、労働者階級の窮乏化の蓄積である（と同時に労働者階級の組織的反抗の蓄積である）。

